

京都部落問題 研究資料センター通信

第6号

発行日 2007年1月25日 (年4回発行) 編集・発行 京都部落問題研究資料センター

報告

部落史連続講座

京都の被差別部落と教育

第1回

児童融和教育の模索と

井手小学校の実践

一九二八年から一九三八年文相訓令まで

講師

伊藤悦子さん

(京都教育大学教授)

報告 金森 襄作

本年度部落史連続講座の第二期・第一回は十一月十六日に京都教育大学の伊藤悦子さんが「児童融和教育の模索と井手小学校の実践 一九二八年から一九三八年文相訓令まで」と題して講演された。戦前の融和教育運動は、「部落対策教育」、「国民の差別意識改革のみの観念論」、「国家権力との親和性」といった観点から戦後一貫して全否定されてきた。しかしそれは個々の融和教育運動を事実にして検証した結果ではなかった。そのため、融和教育を進める中でどういう問題に直面し、どのように解決しようとしていたのかを教育内在的に考察し、融和教育

の歴史的限界と意義を捉えなおしたいという問題意識からの講座発表であった。

まず、米騒動以降の融和運動について、国民の反省・懺悔運動としての融和運動から部落民の自覚を謳う「内部自覚運動」の提唱、部落経済の建て直しをめざす部落経済更生運動にいたる流れを概括的に説明され、これらの動きのなかで一九二八年から二九年にかけて児童融和教育が提唱され始め、田中邦太郎、藤範晃誠、土屋政一などによる理論化や実践の広がりの中で、一九三四年の中央融和事業協会による「融和事業に関する教育的方策要綱」に結実した。具体的内容として、狭義の融和教育である「差別的偏見の打破」とともに、部落子ども会運動など「内部自覚運動の必要性」が提起されたことを融和事業研究や融和時報などの資料を使いながら説明された。尚、一九三八年八月に出された文相訓令「国民融和に関する件」

によつて戦時体制の再編をめざして融和教育が国家からの強制的、形式的なものへと変わつていくため、「一九二八年から一九三八年まで」と時期を区切つての報告であった。

一九三〇年代当時、京都府下での融和教育の中心的役割を果たしたのは、前述の「融和事業に関する教育的方策要綱」で実践校として選ばれた全国六校の小学校のうちの一つである綴喜郡井手小学校であった。同校での実践の中核となつたのは奥谷校長と西本願寺の融和運動活動家と人的つながりをもつ教員鷺山締庵(地元在住職でもあった)であった。この時期の井手小学校の実践について、資料「京都府綴喜郡融和教育研究会の状況」(『融和事業研究』二五号、一九三三年)を使つて詳しく説明され以下のようにまとめられた。

修身科や読方科などでの教材研究や、学校美化などの環境整備を行い、部落児童の実態を調査し社会的経済的な原因に着目して学用品の学校購入やトラホームの無料治療などの就学条件を整備し、また、職業指導にも力を入れ、「自治」「共同」といつた考え方も大切にした。当時の天皇制に基づく一君万民の平等論の枠組みの中であつたが、あらゆる学校教育活

動を融和教育の視点で見直そうとした、部落問題解決に向けた創造的営みであったのである。

最後にまとめとして、この時期の児童融和教育の「敵」は部落問題に関心をもちたくない、理解のない教員・行政であり、これらの教員の意識改革や体制の確立が大きな課題としてあったということ、そして、こうした白紙の状態から模索する中で「差別意識の撤廃と内部自覚」という枠組みや教育内容・方法・教材の開発がなされていったことなどを今日、再評価する必要性を語られた。

第2回

戦前期京都の母子福祉と教育

京都市児童院を中心に

講師 杉本弘幸さん

(京都市市政史編纂助手)

報告 湯浅孝子

第二回目は十一月二十四日に京都市市政史編纂助手の杉本弘幸さんが「戦前期京都の母子福祉と教育 京都市児童院を中心に」と題して講演された。講演要旨は以下の通りである。

一九二〇～三〇年代の京都市の社会事業行政は、各種の児童に関する調査を行うなど、児童福祉に興味関心があり、児童保護事業と

しての児童院の設立構想が熟成していた。

一九三一年、大礼奉賛会からの寄付や恩賜社会事業資金を元手として、京都市児童院が建設された。児童院の事業は、妊産婦の収容助産及び健康相談、児童の保護・心理相談と教化事業であった。児童院は最新鋭の設備と優秀な人材が集められた医療保護、児童保護施設であり、評価は基本的に高かった。中産階級以下の母性及一八歳未満の児童が対象とされた。母性保護と児童保護事業を有機的に関連させる役割を担い、健康相談等の予防医学的な発想に重点を置き、市民全体を対象とした啓発や事業推進に重点を置いた非常に画期的先駆的な福祉総合施設であった。

児童院の事業の特徴としては、ただ児童を収容し、診察をするだけでなく、被差別部落を含む都市社会や外部に積極的に進出し、様々な事業を行うスタイルの施設であった。市内各地の被差別部落の隣保館で無料診療や健康相談を行い、地域医療の拠点となっていた。医師や看護婦による家庭訪問などの指導の結果、部落の地区内での乳児死亡数が著しく減少した。隣保館内にある託児所の保母教育も継続して行っていた。新しい領域であった児童の心理相談も、当初は

利用者が少なかったが、宣伝の結果利用が増加した。母親の会などの組織化や種々の配布物によって一般市民への事業の宣伝も行っていった。

児童院設立の社会的反応としては、京都市産婆組合の反対運動があった。組合の指摘通り、貧困階級よりも中産階級以上の利用者が多かった。また、児童院の近辺地域の者しか利用していないという問題もあったが、利用者は急増し、児童院の存在は京都市民に広く受け容れていた。

この児童院利用者の階層間格差をめぐっては、児童院の入院患者は有料入院者がほとんどであること、実際の貧困者の利用は僅かであり、全利用者の一割に過ぎないことが市会で指摘された。児童院はこの事態を重視し「事業運営の基調」に「利用者の範囲は中産階級以下の市民である」という項目を新たに設けたが、依然として利用者のほとんどは有産者であり、児童院の経営方法についての疑義はその後も続いた。

利用者の階層間格差の問題はあったが、児童院の事業自体は基本的に支持されていた。市中心に二極分化していた地域間格差の是正のため、児童院の市南部への増設が求められたが、結果的には増設

はなされなかった。特に貧困層の集住していた南部方面からの児童院増設についての強い要求があった。

戦時体制下、社会事業概念の変質に伴い、児童院は戦争のための「人的資源」の確保・育成目的として高く位置付けられた。皇室関係者の訪問によって権威付けが行われ、児童院の業績は高く評価された。戦時下の市民の要求に応えた託児事業の利用者は増加し、衛生保健関係事業の保健所への移管によって産婦人科への比重が強まっていた。部落への院外健康相談事業の廃止、保育事業の創設など、戦時下における児童院の存在意義を強化するための事業の再編成が行われた。

児童院は、戦前期は中産階級以下の自立困難な人々を救済するための最新の施設であったが、減額・無料患者は一九三七年をピークに減少し続け、利用者の階層格差や地域格差の矛盾をはらんだ施設運営が行われ、戦時下においては戦時厚生事業の国策に最も適合的な施設であるという自負を持つようになった。戦後は、戦時期以前の児童院事業の復活が始められた。戦後の福祉国家の問題を考える上でも、京都市児童院は興味深い検討対象であるといえる。

京都府・市における 教育の機会均等への施策について

第三次小学校令以降を中心に

白石 正明

はじめに

近代日本の学校教育史をみると、為政者は勿論のこと、各層各種の教育関係者にとって、就学率の向上が最重要の課題であったことがわかる。従来の研究で明らかによつに、さまざまな形態の教育の場が設定され、さまざまな理由から消えていった。その理由のあれこれ、ここではあえてふれない。また、就学の効果を数的に示すはずの就学率も、その統計上の分母や分子の問題、日出席率や入学者数と卒業者数の検討など興味深い問題をはらんでいるが、これもまた、ここではふれない。以下の論考でふれるのは、京都という地域に限った、行政の教育施策の点検である。いまさら何故と思われるだろうが、不思議なこと、当然すでに検討されていたはずのことがなされていなかった。その

ことに、遅ればせながら筆者は気づくこととなった。

実は、昨年来、かつて（一九八〇年）執筆した、京都府愛宕郡田中村の親友夜学校を主宰した上田静一について、まとめ直す機会を与えられた。そのきっかけは、大阪人権博物館の朝治武氏らによる、上田執筆の夜学校と改善運動に関する新史料の発見であった。これらの史料については、近日同館からその発見の経過ととも発表されるので、詳細は『大阪人権博物館紀要』第九号（二〇〇七年一月）に譲るとして、これらの史料は、以前筆者が執筆の際に史料としたものの原本で、上田と彼を取り巻く人びとの日日の行動がリアルタイムで克明に記され、当時の風景が眼前に浮かぶ貴重なものである。朝治氏から、史料を見せられ、しかも、被差別部落の北海道移住の研究を続けている大藪岳史氏と、

朝治氏とともに、上田と改善運動について共同研究をしようとの誘いを受けた。願ってもないことであった。そこで筆者は、上田の再発掘を、以前の論考では不足していた教育政策史との関連の中で捉えようと試みたのである。そして、丹念に新聞を中心とした当時の史料を読んでいくうちに、重要と思われる具体的施策が、今まで看過されていたという事実を知ることとなったのである。

以下、本稿では、京都府・郡・市による一九〇〇（明治三三）年の第三次小学校令前後の、義務教育の機会均等のための政策に関する資料を、煩瑣にならない程度に紹介しながら、その経過をたどっていきたいと思う。事実を踏まえた上で、これらの施策の意味を検討したい。時期としては、一九〇五（明治三八）年一〇月の京都府令第三八号「尋常小学校児童に対する教育資金補助規程」及び、翌〇六年一月の京都府訓令第二号「学齢児童皆就学の督励に関する訓令等」、そして一九一四（大正三）年三月の夜学校設立のための「京都市特別教授規程」までを対象としたい。これらの府令・訓令等は、すでに周知のものだが、ここに至るまでの経

過、試行錯誤をたどってみようと思う。（なお、以降、人名については、本文と注を含めて敬称をすべて省略する）。

一、学校教育の義務化と就学

近代日本の義務教育の制度的成立は、通常、一八八六（明治一九）年の小学校令、一八九〇年の小学校令、そして、一九〇〇年の小学校令とされている。教育が「義務」と法令上に規定され、次に地方自治制と憲法、そして教育勅語との整合性が図られ、ついには、授業料の原則廃止である。この三つの教育令がはらんだ問題は大きい。制度のトレンドとして単純化してみると、この通説は妥当なものといえよう（注し）。

子どもの教育が義務であると制度的にうたわれていくのに並ぶように、受け手の国民の側にも学校教育が重要性をもってくる。日清戦争での教育の「効用」を国家は実感したが、国民も戦場からの情報の獲得に教育の「価値」を実感した（注し）。また、佐藤秀夫は、明治維新から約三〇年、「国民生活構造」の変化のなかで、公教育を受けることのメリット（言い換えれば受けにくいことの不利益）を民衆が実

感じつつあったことを挙げている。また、「小学校への毎日通学が一般的な社会慣行とみなされつつあった」と分析している(注5)。「学制」世代が親となっていく時代が始まっていたといえる。一八九八年当時の『文部省年報』による就学率(全国・男女平均)は、六八・九%である。この数字を押し上げる環境にあると為政者が捉えたのは当然である。

一八九九(明治三二)年四月二二日の地方官会議において、文部大臣樺山資紀は、次のように演説した。つまり、教育行政は地方官にとって他の「積極的監督事務」と同じではなく、「積極的施設に属するもの多き」がゆえに、そこを大いに留意し、「国家富強の基礎」を強固にしなければならぬ、と(注4)。続いて同年七月の地方視学官会議で、樺山文相は、現在の六六%の就学率は、「欧州各強国百分の九十以上にあるに比すべく非らず」として、明治四〇年(一九〇七年)を期して「^{すくなく} 勢とも」八五%以上にするよう、数値目標を掲げて、檄を飛ばした(注5)。就学率は、日露戦争を間に挟んだ一九〇七年には、樺山の設定した目標を大きく突破した九七%となる。

翌一九〇〇年八月の小学校令改正が視野にはいった中で、地方官への文相の督励であったが、従来の研究に明らかなように、地方官による就学督励は一九〇〇年前後にピークをみたといわれる(注6)。田中論文には、茨城県、新潟県等とともに、京都市の事例が記されている。

京都の事例として挙げられているのは、一八九九年学二一七号で就学の調査の厳格化であった。この田中論文ではふれられていないが、この通牒は、府訓令第一八四号と同時に発布されたものである。不就学者数の減少をねらったの、就学猶予・免除許可の厳正化をはかったもので、従来の施策の延長、具体的には、一八九六年一月の府令第六〇号の延長上にあるといつてよかつた(注7)。一八九八年末の京都府の就学率は七七%であった。目標とする数値は文相の言葉にあるように八五%以上である。(府訓令第一八四号)

ただし、一八九七年五月地方視学、一八九九年六月府県視学官・視学・郡視学が設置され、教育督励のための人的配置が整えられていき、地方における就学督励が実

施されていく、下地が整えられていったといえよう。京都府においては、一八九九年六月に本荘太郎が府視学官に任命されている(注8)。府下・市内の就学督励の状況が報告されているが、地域でバラツキがあり、盛んに協議を重ねている。

そして、一九〇〇年一月、府当局が就学猶予・免除の厳格化の方針から、就学条件整備の方向を模索し始めたことが報じられた(注9)。そこには、「現在就学生は相当資産を有するもの、子弟にして、不就学者は重もに貧苦の為め就学すること能はざるものなれば、是等貧困者の子弟に対しては市町村費より補助を与へ、以て教育の普及を謀らんとの方針なり」とある。不就学児童を取り巻く状況へのまなざしが、共有されていく端緒であつた。

その方針の実施は、府当局からではなく、紀伊郡から始まった。(以下、次号に続く)

注

(1) 詳しくは、田中勝文「義務教育の理念と法制 貧民学校から義務制を考へる」(『講座日本教育史』第三

巻、第一法規出版、昭和五九年)を参照。

(2) 三原芳一「一八九〇年代の学齢児童不就学とその変容」(本山幸彦教授退官記念論文編集委員会編『日本教育史論叢』思文閣出版、昭和六三年)。

(3) 佐藤秀夫「学校観の成立 小学校における課程編成の形成過程を中心として」(『教育の文化史』・学校の構造』、阿吡社、二〇〇四年)。

(4) 文部省大臣官房総務課編『歴代文部大臣式辞集』(大蔵省印刷局、昭和四四年)一〇九頁。

(5) 『教育時論』第五一四号、明治三二年七月二五日。

(6) 田中勝文「児童保護と教育、その社会史的考察 東京市の特殊小学校設立をめぐる」(『名古屋大学教育紀要』第二二巻、昭和四〇年九月)。

(7) 『京都小学五十年誌』(京都市役所、大正七年)八丁八三頁。

(8) 『京都日出新聞』明治三二年六月一六日付。

(9) 『京都日出新聞』明治三三年一月二七日付。

人権擁護法制における主な論点 内田博文 / 糾弾会の正当性について 松阪商業高等学校教員差別事件の判決から 桜井健雄 / 徳島自衛官部落差別事件判決と今後の課題 大川一夫 / 差別ハガキの「加害者」と「被害者」 大量連続差別投書・ハガキ事件の加害者と更生について 河村健夫
 朝鮮「白丁」身分の起源に関する一考察 下 徐知延
 虐待する親の回復支援 富田林市人権協議会「MY TREEペアレンツ・プログラム」の取り組み 中川和子
 国連人権理事会の動向について 白石理
 書評
 ドミニク・S・ライチェン, ローラ・H・サルガニク編著『キー・コンピテンシー 国際標準の学力をめざして』 上杉孝實 / 斎藤洋一『被差別部落の生活』 奥本武裕 / おおさか人材雇用開発人権センター編『おおさか仕事探し 地域就労支援事業』 福原宏幸
 部落解放研究くまもと 52号(熊本県部落解放研究会刊, 2006.10)
 特集 水俣病50年の現状
 権力に迎合した教団とそれへの抵抗 真宗大谷派における近代の一側面 東道成
 部落問題研究 177(部落問題研究所刊, 2006.10): 1, 111円
 部落問題の解決と賀川豊彦 鳥飼慶陽
 憲法制定後の人権意識 行政機関の世論調査 尾川昌法
 紹介 猪飼隆明著『ハンナ・リデルと回春病院』・『「性の隔離」と隔離政策 ハンナ・リデルと日本の選択』 松岡弘之
 史料紹介 滋賀県豊田・輯睦会文書 その1 西尾泰広
 部落問題文芸作品発掘 12
 国境の峠に泣く 宇野浩二 / 作品解題 秦重雄
 もやい 長崎人権・学 52号(長崎人権研究所刊, 2006.10): 700円
 キリシタンと部落問題 キリシタン迫害と被差別民 阿南重幸
 岩永マキと「女部屋」の女性たち 孤児養育事業の草分け 葛西よう子
 ハンセン病と差別 風見治
 ジャカルタ日本人学校での日々 1 勝見廣治
 1945年 ウラカミ 馬場務
 文学の舞台を訪ねて 4 対馬幻想行 橋川文三 田中良彦
 山本正男 = 政夫研究会会報 2(山本正男 = 政夫研究会刊, 2006.9)
 全国融和連盟と山本正男 本郷浩二
 山本正男著作目録 2 1927年~1929年 宮武利正
 山本正男 = 政夫研究会会報 3(山本正男 = 政夫研究会刊, 2006.11)
 共鳴会時代の山本正男 手島一雄
 秋定嘉和著『近代日本の水平運動と融和運動』出版記念会参加記 朝治武

山本正男著作目録 3 1930年~1934年 宮武利正
 ライツ 89(鳥取市人権情報センター刊, 2006.10)
 今月のいちおし! 『変革は、弱いところ、小さいところ、遠いところから』(清水義晴, 小山直著) 福壽みどり
 ライツ 90(鳥取市人権情報センター刊, 2006.11)
 今月のいちおし! 『アルネの遺品』(ジークフリート・レンツ著) 田川朋博
 リージョナル 3(奈良県立部落問題関係史料センター刊, 2006.10)
 高田町「米騒動」始末 下 中村泰彦
 救療施設・北山十八間戸最後の住人 吉田栄治郎
 大和同心会会長の辞職届 奥本武裕
 霊場の整備と被差別部落 井岡康時
 リージョナル 4(奈良県立同和問題関係史料センター刊, 2006.11)
 薬師寺西郊の夙村と救療施設・西山光明院 吉田栄治郎
 近世後期の永原村と中村家 中村直三関係史料の紹介 1 谷山正道
 史料紹介・奈良県戸籍規則書とその背景 井岡康時
 大和郡山今井町光慶寺の成立と地域住民 奥本武裕
 広報誌リバティ 35号(大阪人権博物館刊, 2006.10)
 "リバティおおさか"の総合展示リニューアルに寄せて 多賀仁
 リベラシオン 人権研究ふくおか 123(福岡県人権研究所刊, 2006.9): 1,000円
 福岡における高校奨学制度確立の意義と課題 同和对策事業の成果を普遍化させる取り組みとして 小西清則
 朝鮮「白丁」身分の起源とその変遷 徐知延
 『日本少年』掲載の作文「新平民」 石瀧豊美
 久留米市における「人権のまちづくり」の取り組みとわたし 中島一磨
 自力自闘の解放運動 宮崎県えびの・北岡松支部の藍の手染め 西尾紀臣
 近世民衆史の泉 48 古文書学習会
 全九州水平社のゆかりの地を訪ねて
 ビデオ紹介 『春の日は過ぎゆく』(許秦豪監督, 2001年, 韓国・日本・香港) 家父長制社会の影 船津建
 書評 『衡平運動 朝鮮の被差別民・白丁その歴史とたたかい』(金仲燮著) 赤嶺多賀生
 ルシファー 9(水平社博物館刊, 2006.10): 500円
 講座報告
 関西沖繩県人会と水平社 仲間恵子 / 水平線をかけぬけた永遠の少年闘士 山田孝野次郎 金井英樹

- 講演録 地域社会の歴史的諸相を考える 5 吉田栄治郎
 ねっとわーく京都 213 (ねっとわーく京都21刊, 2006.10) : 500円
 職員不祥事 市民の不信は想像以上に根深いぞ 寺園敦史
 ねっとわーく京都 214 (ねっとわーく京都21刊, 2006.11) : 500円
 特集 市民に見えなかった同和行政の”影の時期”を語る
 ねっとわーく京都 215 (ねっとわーく京都21刊, 2006.12) : 500円
 特集 京都・東大阪、それぞれの同和行政
 奪われた人事権と売買された採用枠 寺園敦史
 はらっば 269 (子ども情報研究センター刊, 2006.12)
 特集 戦争を語る、戦後世代
 ヒューマンライツ 224 (部落解放・人権研究所刊, 2006.11) : 525円
 走りながら考える 67 冷静にメディア各社に質問したい
 初期報道に問題はないか 北口末広
 多民族・多文化の子どもたちの教育を支える仕組みづくりを
 国際化時代の在日外国人教育 金光敏
 歴史教科書における部落問題に関する記述についての一考察
 ～高校日本史B (2006年度版)を対象に～ 1 渡邊明彦
 ヒューマンライツ 225 (部落解放・人権研究所刊, 2006.12) : 525円
 走りながら考える 68 電子版「部落地名総鑑」流出の背景
 最も恐れた事態が発生 北口末広
 愛知県西三河地域の人権意識の現状と課題 世古政弘
 歴史教科書における部落問題に関する記述についての一考察
 2～中学校社会・歴史教科書 (2006年度版)を対象に～ 田林圭太
 ひょうご部落解放 122 (ひょうご部落解放・人権研究所刊, 2006.9) : 700円
 特集 兵庫の解放保育の取り組み
 再び兵庫の部落史に学ぶ 2 戦国時代摂津・丹波の戦国領主と「かわた」衆たち 安達五男
 <「夜間中学」と「教育」を語る会・神戸>のはじまりに寄せて 草京子
 街をあるけば 番外編 『人権歴史マップ』をかた手に生田川をあるく
 本の紹介
 『育つ・育てる・育ちあう 子どもとおとなの関係を問い直す』(井上寿美・笹倉千佳弘著) 八箇亮仁 / 『同和・人権保育のカリキュラム作成に向けて』(大阪保育子育て人権情報研究センター刊) 吉田恵子 / 『阿賀のお地蔵さん』(WAKKUN絵と文) 高吉美
 部落解放 573号 (解放出版社刊, 2006.11) : 630円
 特集 フィールドワークでめぐる部落の歴史
 歴史の罪を掘り起こして財産に 筑前竹槍一揆ウォークと被差別部落 竹森健二郎 / 全国水平社発祥の地 柏原と水平社博物館 仲林弘次 / 京都・部落史ゆかりの地 水平社創立への源流・底流・本流 本郷浩二 / 旧南王子村の歴史と南王子水平社のたたかいに学ぶ 人権文化のスタディツアー「ダッシュツアー」 吉岡隼平 / 語り継ぎたい歴史がある おおくぼまちづくり館からの発信 福西満本の紹介 『被差別部落の生活』(斎藤洋一著) 藤井寿一
 資料 部落解放運動 信頼の再構築と再生にむけて「飛鳥会等事件」の総括と府連見解 部落解放同盟大阪府連合会
 師岡佑行さんの仕事について 秋定嘉和
 生きている部落文化 共感の糸を奏でよう 下 川元祥一
 差別の歴史を考える 26 アイヌと沖縄人 ひろたまさき
 部落解放 574号 (解放出版社刊, 2006.12) : 630円
 特集 韓国人権事情
 本の紹介
 『近代日本の水平運動と融和運動』(秋定嘉和著) 本郷浩二 / 『迷走する両立支援 いま、子どもをもって働くということ』(萩原久美子著) 大城光
 電子版「部落地名総鑑」の回収とその意味 北口末広
 差別発言の不法性を認定するも、その他を否定 徳島自衛隊内差別発言事件の高松高等裁判所判決について 竹下政行
 大阪「飛鳥会」問題等一連の不祥事にかかわる見解と決意 部落解放同盟中央執行委員会
 差別の歴史を考える 27 朝鮮と中国 ひろたまさき
 部落解放研究 172 (部落解放・人権研究所刊, 2006.10) : 1,000円
 特集 第1回部落解放・人権研究者会議報告
 憲法問題プロジェクト「中間提言」の概要と今後の課題 金子匡良 / 維新の変革と部落問題研究 北崎豊二 / 従業員の個人情報保護への企業の取り組みの現状と今後の課題 竹地潔 / フリーター調査から「子ども・若者と社会的排除」研究へ 若年未就労問題調査プロジェクトの展開 西田芳正
 実践報告「わたしひろがれ！」 ライフスキルの向上と不登校生への支援に取り組んで 松原市立松原第七中学校
 大学におけるサービス・ラーニングの実践 堺市の中国帰国児童生徒教育との関わりを中心に 中島智子
 朝鮮「白丁」身分の起源に関する一考察 上 徐知延
 在日外国人教育研究レビュー 中国帰国生教育を中心に 鍛治致
 書評
 「浪速部落の歴史」編纂委員会編『史料集 浪速部落の歴史』 藤原豊 / 炭谷茂・大山博・細内信孝編著『ソーシャルインクルージョンと社会起業の役割 地域福祉計画推進のために』 北島健一 / 志水宏吉『学力を育てる』 岸裕司 / 森川恭剛『ハンセン病差別被害の法的研究』 訓覇浩
 部落解放研究 173 (部落解放・人権研究所刊, 2006.12) : 1,000円
 特集 人権擁護法制の現状と課題

過と特徴 梅田修/福岡県 今日も支援加配教員は学校に
いなかった 植山光朗

「同和利権」不祥事を考える 今日の「解同」問題は部
落問題にあらず 成澤榮壽

本棚 窪田充治著『土佐の半世紀をふり返って』 山下正
寿

文芸の散歩道 梅川文男生誕百年 プロレタリア文学と部
落問題文芸の接点で書いた作家 桑原律

差別と向き合うマンガたち 32 原住民としての縄文人
「豊かさ」の意味 田中聡

戦後同和行政の展開と支配政策 6 「解同」の暴力的
実行と政府・自民党の「泳がせ政策」上 杉之原寿一

人権と部落問題 753 (部落問題研究所刊, 2006.12) :
630円

特集 三重県の同和行政・同和教育

文芸の散歩道 患者と格闘する彼女がここにいた 小川
正子「続・小島の春」 秦重雄

差別と向き合うマンガたち 33 「差別表現」と復刻の意
義? 平田弘史『血だるま剣法』 表智之

皇位継承問題と「国体」の歴史 岩井忠熊

戦後同和行政の展開と支配政策 7 「解同」の暴力的
実行と政府・自民党の「泳がせ政策」(下) 杉之原寿一

季刊人権問題 345 (兵庫人権問題研究所刊, 2006.10) :
735円

書評 東野敏弘著『架け橋』 中村邦男

じんけんぶんかまちづくり 13号(とよなか人権文化
まちづくり協会刊, 2006.12)

報告 部落問題は今、研究会～飛鳥会事件を考える～

報告 人権サロン 「今だから問う! 部落とは? 部落民と
は?」 角岡伸彦

信州農村開発史研究所報 96・97号(信州農村開発史
研究所刊, 2006.9)

多方面にわたる関心と関わり 朝倉資料覚書 4 川向
秀武

史料紹介 上信一揆による五郎兵衛新田村の被害 斎藤洋
一

月刊スティグマ 125号(千葉県人権啓発センター刊,
2006.9) : 500円

特集 福田村事件犠牲者追悼慰霊碑 「福田村事件を心に
刻む会」代表・濱田毅さんを偲ぶ

部落史を歩く 3 「万石騒動と被差別民」 坂井康人

月刊スティグマ 126号(千葉県人権啓発センター刊,
2006.10) : 500円

部落史を歩く 4 「『勝扇子』事件と被差別部落」 坂井
康人

月刊スティグマ 127号(千葉県人権啓発センター刊,
2006.11) : 500円

特集 習志野原と高津廠舎

月刊地域と人権 273 (全国地域人権運動総連合刊, 20
06.10) : 350円

若者の社会的自立をどう支援できるか～若者支援の現場
から 佐藤洋作

府民の共同の力で部落問題解決の最終段階を切り開こう
民主主義と人権を守る府民連合

月刊地域と人権 274 (全国地域人権運動総連合刊, 20
06.11) : 350円

特集 第3回地域人権問題全国研究集会

NHK「関西クローズアップ『揺れる同和行政』」に対す
る抗議と意見 表野賀弘

月刊地域と人権 275 (全国地域人権運動総連合刊, 20
06.12) : 350円

ルポ 地域実態調査 河岸理恵

NHKのゆがんだ報道に全国人権連が抗議と申し入れ

であい 534 (全国同和教育研究協議会編, 2006.9) : 1
50円

人権文化を拓く 114 差別の連鎖を断ち切るために 藤野
豊

であい 535 (全国同和教育研究協議会編, 2006.10) :
150円

人権のまちをゆく 34 浦上山里村を歩く 傳均

人権文化を拓く 115 絵本は優しさを紡ぐ人権文化 林田
鈴枝

であい 536 (全国同和教育研究協議会刊, 2006.11) :
150円

人権のまちをゆく 35 隣保館は人権啓発、同和教育の拠
点 新潟県新発田市

人権文化を拓く 116 人権保障の教育基本法改正かどう
か 渡久山長輝

どの子も伸びる 369 (部落問題研究所刊, 2006.10) :
735円

「人権教育」とは 『対話ですすめる人権学習』・「学
習活動例」の問題点 1 谷口幸男

どの子も伸びる 371 (部落問題研究所刊, 2006.11) :
735円

「人権教育」とは 『対話ですすめる人権学習』・「学
習活動例」の問題点 2 谷口幸男

どの子も伸びる 372 (部落問題研究所刊, 2006.12) :
735円

特集 人権認識の形成 1 生活綴方の実践

「人権教育」とは 「新任教員のためのガイドブック」
の問題点 谷口幸男

なら解放新聞 738号(奈良県部落解放同盟支部連合会
刊, 2006.9) : 140円

第33回奈良県部落解放研究会報告

「大阪・京都の同和排除のキャンペーン」一考 山下力

なら解放新聞 739号(奈良県部落解放同盟支部連合会
刊, 2006.10) : 140円

第43回対県交渉要求書特集

なら解放新聞 740号(奈良県部落解放同盟支部連合会
刊, 2006.11)

第43回対県交渉要求書特集 「答申」路線から決別を 運
動・行政ともに

奈良市の「休職職員」の「同盟幹部」名刺と営業活動に
ついでの見解 山下力

ハンセン病国賠訴訟からみる国家と差別 藤野豊
 かわとはきもの 137 (東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2006.9)
 靴の歴史散歩 82 稲川實
 正倉院と皮革 2 文豪鴉外も関わった宝物の虫干し 履の主構成材は牛皺革 出口公長
 皮革関連統計資料
 季節よめぐれ 226 (京都解放教育研究会刊, 2006.11)
 きっと笑って会える日を 井上泰子
 クロノス 25 (京都橘大学女性歴史文化研究所刊, 2006.10)
 BOOK REVIEW 『乳母の力 歴史を支えた女たち』(田端泰子著) 米澤洋子
 グローブ 47 (世界人権問題研究センター刊, 2006.10)
 近世と「勸進」の時代 村上紀夫
 研究所通信 338 (部落解放・人権研究所刊, 2006.10) : 100円
 第12回全国部落史研究交流会報告 上 藤原豊
 最近の文献から 橋木俊詔 『格差社会 何が問題なのか』 李嘉永
 国際人権ひろば 70 (アジア・太平洋人権情報センター刊, 2006.11) : 350円
 特集 持続可能な開発と人権 東南アジアの現実から考える
 こべる 164 (こべる刊行会刊, 2006.11) : 300円
 対談: 人間と差別について考える 1 子どもたちと向き合う 鶴見俊輔+藤田敬一
 三味線と猫 重信陽子
 こべる 165 (こべる刊行会刊, 2006.12) : 300円
 対談: 人間と差別について考える 2 差別問題と向き合う 鶴見俊輔+藤田敬一
 遠のく被災の記憶、だが... 中村大蔵
 ごんずい 96 (水俣病センター相思社刊, 2006.9) : 315円
 特集 阿賀野川と新潟水俣病
 ごんずい 97 (水俣病センター相思社刊, 2006.11) : 315円
 特集 水俣病公式確認50年事業 3 「小括」
 追悼 宇井純先生 桜井国俊
 在日朝鮮人史研究 36 (緑蔭書房刊, 2006.10) : 2,400円
 「併合」直前・後における在日朝鮮人留学生を取り巻く状況 朝鮮総督府の留学生取り締まりと「収用」政策 ベ・ヨンミ
 1922年大阪朝鮮労働同盟会の設立とその活動の再検討 塚崎昌之
 安光泉と<東洋無産階級提携>論 黒川伊織
 朝鮮人戦時労働動員における民族差別 古庄正
 アジア太平洋戦争下日曹天塩鉱業所朝鮮人寮第一・二尚和寮の食糧事情 守屋敬彦
 「朝鮮人第五方面軍留守名簿」にみる樺太・千島・北海道部隊の朝鮮半島出身軍人 北原道子

在日朝鮮人の帰還援護事業の推移 下関・仙崎の事例から 鈴木久美
 越境者と占領下日本の境界変貌 英連邦進駐軍資料を中心に マシュー・オーガスティン
 神戸市長田区「大橋の朝鮮人部落」の形成 解消過程 本岡拓哉
 資料紹介 広島市社会課編「在広鮮人生活状態」(広島市役所, 1926年3月) 宮本正明
 月刊滋賀の部落 396 (滋賀県同和問題研究所刊, 2006.10) : 600円
 大学における『人権教育論』講義の一つの試み 山田稔
 高校生の「人権意識」と人権教育実践によせて 中野功
 谷口勝巳と滋賀の部落史研究 川本治雄
 史料 滋賀縣嘱託海野幸徳述 小善隣館主義 滋賀縣の融和政策
 月刊滋賀の部落 397 (滋賀県同和問題研究所刊, 2006.10) : 400円
 滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 7 鈴木俊亮
 月刊滋賀の部落 398 (滋賀県同和問題研究所刊, 2006.11) : 400円
 滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 8 鈴木俊亮
 人権21 調査と研究 184 (岡山人権問題研究所刊, 2006.10) : 650円
 混迷の人権教育政策 明楽誠
 人権21 調査と研究 185 (岡山人権問題研究所刊, 2006.12) : 650円
 特集 人権と教育
 人権と部落問題 751 (部落問題研究所刊, 2006.10) : 630円
 特集 いま、なぜ人権意識調査なのか
 今、なぜ人権(意識)調査なのか 杉之原寿一/大阪府「人権問題に関する府民意識調査」について 伊賀興一/「京都市人権文化推進計画」と「人権に関する市民意識調査報告書」について 河野健男/和歌山県 人権課題現況調査は人権侵害 竹田政信
 文化と人権 失明ハンセン病回復者の舌読に学ぶ 清水寛
 本棚 立命館百年史編纂委員会編 『立命館百年史 通史2』 成澤榮壽
 文芸の散歩道 『破戒』出版百年に当たって 川端俊英
 差別と向き合うマンガたち 31 マンガのメッセージの伝達方法 どちらの方が「わかりやすい」か 吉村和真
 戦後同和行政の展開と支配政策 5 政府・自民党主導の同和对策事業特別措置法の制定過程 下 杉之原寿一
 人権と部落問題 752 (部落問題研究所刊, 2006.11) : 630円
 特集 人権・同和教育の検証
 同和教育行政・「人権(同和)教育研究団体」のあり方にかかわって 大同啓五/長野県における同和行政・教育の現状 阿藤満政/児童生徒支援加配教員の配置の経

今週の1冊 『憲法九条を世界遺産に』（太田光・中沢新一著）
 山口公博が読む今月の本
 『植村直己 妻への手紙』（植村直己著）／『楽しいぞ！ひと昔前の暮らししかた』（新田穂高著）／『日本語の歴史』（山口仲美著）
 解放新聞 2293号（解放新聞社刊，2006.11.6）：120円
 解放の文学 8 鄭承博と小説『水平の人』 栗須七郎への追慕 音谷健郎
 今週の1冊 『うごいてやすむ』（天野泰司著）
 ニート・引きこもりの解決をめざす雑居福祉村 5
 パレスチナの細部をみつめること インタビュー 岡真理さん
 ぶらくを読む 18 現代天皇制は部落の存在とどんな必然関係にあるのか 湧水野亮輔
 解放新聞 2295号（解放新聞社刊，2006.11.20）：80円
 今週の1冊 『戦争と性みつめる旅「加害者」の視点から』（谷口和憲著）
 解放新聞 2296号（解放新聞社刊，2006.11.27）：80円
 今週の1冊 『愛国の作法』（姜尚中著）
 山口公博が読む今月の本
 『親鸞 歎異抄』（野間宏訳）／『善の研究』（西田幾多郎著）／『韓のくに紀行 街道をゆく2』（司馬遼太郎著）
 解放新聞 2297号（解放新聞社刊，2006.12.4）：120円
 解放の文学 9 猪野睦と『埋もれてきた群像』 反戦の若者に光 音谷健郎
 今週の1冊 『少年事件に取り組む 家裁調査官の現場から』（藤原正範著）
 ぶらくを読む 19 天皇制という玉のなかの宇宙がつくる部落差別 湧水野亮輔
 解放新聞 2298号（解放新聞社刊，2006.12.11）：80円
 ニート・引きこもりの解決をめざす雑居福祉村 6
 解放新聞改進黨 352号（部落解放同盟改進黨支部刊，2006.10）
 特集 教育基本法 危機にさらされる子ども、教育基本法を考える
 解放新聞改進黨 353号（部落解放同盟改進黨支部刊，2006.11）
 郁文中学校二部（夜間）学級が問いかける！ 学校の在り方とは、教育保障とは
 郁文中学校二部（夜間）学級の開設にあたって 仲田直先生に聞く
 解放新聞京都版 734号（解放新聞社京都支局刊，2006.10.1）：70円
 教育基本法の「改正」問題を問う 1 教育基本法とはどんな法律か
 解放新聞京都版 735号（解放新聞社京都支局刊，2006.10.10）：70円
 主張 京都市の不祥事について
 教育基本法の「改正」問題を問う 2 政府「教育基本法案」を批判する

むこうにみえるは 改進黨の部落史 4
 解放新聞京都版 736号（解放新聞社京都支局刊，2006.10.20）：70円
 安さんを偲んで 仲田直
 むこうにみえるは 改進黨の部落史 5
 解放新聞京都版 737号（解放新聞社京都支局刊，2006.11.1）：70円
 むこうにみえるは 改進黨の部落史 6
 解放新聞京都版 738号（解放新聞社京都支局刊，2006.11.10）70円
 むこうにみえるは 改進黨の部落史 7
 解放新聞京都版 739号（解放新聞社京都支局刊，2006.11.20）：70円
 むこうにみえるは 改進黨の部落史 8
 解放新聞京都版 740号（解放新聞社京都支局刊，2006.12.1）：70円
 むこうにみえるは 改進黨の部落史 9
 解放新聞京都版 741号（解放新聞社京都支局刊，2006.12.10）：70円
 むこうにみえるは 改進黨の部落史 10
 解放へのはばたき 80（日本基督教団部落解放センター運営委員会刊，2006.11）
 特集 2004年全国伝道所・教会 部落差別問題アンケート語る・かたる・トーク 139（横浜国際人権センター刊，2006.9）：500円
 わたしと部落とハンセン病 12 林力
 信州の近世部落の人びと 17 斎藤洋一
 同和問題再考 69 形は10年、中身は5年 田村正男
 部落差別の現実 50 「ある」のに「ない」ことに 江嶋修作
 語る・かたる・トーク 140（横浜国際人権センター刊，2006.10）：500円
 わたしと部落とハンセン病 13 林力
 古文書はかたる古文書に聴く 番外・ビデオ『マリア・ルス号事件 人間の港ヨコハマ』を見て 斎藤洋一
 同和問題再考 70 秘話 治一郎は、反対だった 田村正男
 部落差別の現実 51 部落差別の実態？ 1 江嶋修作
 語る・かたる・トーク 141号（横浜国際人権センター刊，2006.11）：500円
 わたしと部落とハンセン病 14 林力
 信州の近世部落の人びと 18 旦那寺 1 斎藤洋一
 同和問題再考 71 秘話 ワナにはまった総理府長官 田村正男
 部落差別の現実 52 部落差別の実態 2 江嶋修作
 カトリック大阪教会管区部落問題活動センターたより 秋号（カトリック大阪教会管区部落問題活動センター刊，2006.11）
 「同和対策事業」の不正事件から、解放運動の質が問われている昨今 部落問題に取り組むキリスト教連帯会議研修会から 橋本瑠璃子
 カトリック部落問題委員会ニュースレター 106（カトリック部落問題委員会刊，2006.11）

収集逐次刊行物目次 (2006年10月～12月受入)

～各逐次刊行物の目次の中から部落問題関係のものを中心にピックアップしました～

- 跡地発 35 (大阪市人権協会, 大阪市よさみ人権協会刊, 2006.10)
 十人十色の部落問題 28 私たちはどんな社会を目指すのか? 角岡伸彦
 大阪の部落史通信 39 (大阪の部落史委員会刊, 2006.11)
 摂津国東成郡荒生村常宣寺所蔵史料について 左右田昌幸
 書評と紹介 箕面市史改訂版編さん委員会編『改訂箕面市史 部落史』史料編3 (近世・近現代) 吉村智博
 岡山部落解放研究所報 280・281号 (岡山部落解放研究所刊, 2006.7・8) : 100円
 定例読書会 「『部落史』論争を読み解く」報告
 岡山部落解放研究所報 282号 (岡山部落解放研究所刊, 2006.11) : 100円
 報告 「和泉国南王子村」研修 好並隆司
 解放教育 468 (解放教育研究所編, 2006.11) : 740円
 特集 アイヌアートの未来
 元気のもととはつながる仲間 20 いま、ここでの自分にこだわって (前編) 宇和島から日之出、そして山口へ 外川正明
 解放教育 469 (解放教育研究所編, 2006.12) : 740円
 特集 国際教育をどう推進するのか
 元気のもととはつながる仲間 21 いま、ここでの自分にこだわって (後編) ふたたび愛媛、第58回全同教大会へ 外川正明
 解放新聞 507号 (岡山解放新聞社刊, 2006.7.25・8.10)
 全国水平社の創立といま 2003年6月1日 岡山県水平社創立80周年記念集会 講演要旨 3 師岡佑行
 解放新聞 508号 (岡山解放新聞社刊, 2006.8.25)
 全国水平社の創立といま 2003年6月1日 岡山県水平社創立80周年記念集会講演要旨 4 師岡佑行
 解放新聞 2287号 (解放新聞社刊, 2006.9.25) : 80円
 ニート・引きこもりの解決をめざす雑居福祉村 2
 今週の1冊 『監視カメラは何を見ているのか』 (大谷昭宏著)
 ぶらくを読む 16 藤村『破戒』100年と現代文学 湧水野亮輔
 解放新聞 2288号 (解放新聞社刊, 2006.10.2) : 120円
 解放の文学 7 有島武郎と評論『宣言一つ』 時代思想への希求 音谷健郎
 今週の1冊 『グローバル化・新自由主義批判事典』 (イグナシオ・ラモネ 他著)
 部落解放運動 信頼の再構築と再生にむけて 「飛鳥会等事件」の総括と大阪府連見解
 ぶらくを読む 17 水平・融和運動研究の現在 湧水野亮輔
 解放新聞 2289号 (解放新聞社刊, 2006.10.9) : 80円
 大阪「飛鳥会」問題等一連の不祥事にかかわる見解と決意 部落解放同盟中央執行委員会
 劇『破戒』を上演する中西和久さんに聞く
 「電子版・地名総鑑」発覚・回収にあたっての緊急声明
 部落解放同盟中央本部
 解放新聞 2290号 (解放新聞社刊, 2006.10.16) : 80円
 今週の1冊 『戦争の克服』 (阿部浩己・鶴飼哲・森巢博著)
 山口公博が読む今月の本
 『伴侶の死』 (平岩弓枝編) / 『大山倍達正伝』 (小島一志, 塚本佳子著) / 『冷血』 (トルーマン・カポーティ著)
 解放新聞 2291号 (解放新聞社刊, 2006.10.23) : 80円
 資料 京都市の不祥事について 部落解放同盟京都府連
 ニート・引きこもりの解決をめざす雑居福祉村 3
 今週の1冊 『異郷の人間味 架橋する在日外国人』 (高賛侑著)
 解放新聞 2292号 (解放新聞社刊, 2006.10.30) : 80円
 ニート・引きこもりの解決をめざす雑居福祉村 4

事務局より

当資料センターが毎週発行していますメールマガジンがもうすぐ通巻200号になります。第1号は2002年4月25日発行で、当初は隔週発行でしたが定期刊行物目次速報・新着図書情報とともに前所長の灘本さんによる映像レビューやタイムリーなコラムなども掲載していました。現在は目次速報・図書情報・人権テレビ番組情報ですが、500部近い発行部数となっています。バックナンバーは全てホームページ上でも読めますので是非ごらんになってください。

所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター 3階

TEL/FAX 075-415-1032

URL <http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時 (祝日・年末年始は休みます)

交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅 (京都駅より約10分) 下車 北へ徒歩2分